

## 市の課題と現状

### 高齢化

- ・高齢化率35.0%(全国28.1%)※H30.10
- ・路線デマンド方式「中村まちバス」を運行するも、空白地域あり

### 観光交流

- ・四万十川を中心に年間110万人の来訪者
- ・「土佐の小京都」・「公家がつくったまち」としてPRする中心部への誘客が課題

H30 中心部に隣接する郷土博物館をリニューアル  
R 2 中心部に市街地活性化拠点オープン予定

### プロ運転手の担い手不足

## 実験地域の課題

### 丸の内地区から中心部への足の確保

- 高齢者が中村地区でも多い(129人)
- 公共交通空白地
- 現状でも1.5~2km離れた市中心部に行くことも困難な方がおり、高齢化が更に進展した場合の生活の足の確保が課題

### 市中心部の観光誘客

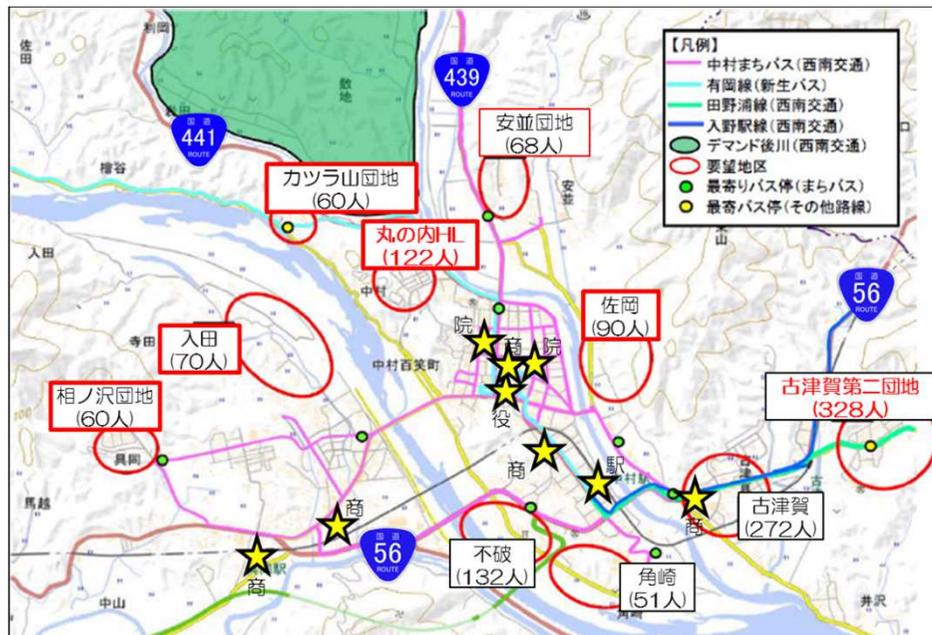
- 市中心部から郷土博物館へは、幅員が狭く、勾配の急な市道を徒歩ないし車で移動
- 市中心部と外来客の回遊性を高めることが課題

## 2-1.実証実験の目的

資料3-1

- 交通空白地の解消
  - ・市街区域内での少子高齢化の進行に伴う、外出困難高齢者の移動手段の確保(主対象地区:丸の内ハイランド)。
- 中心市街地の流動性の向上
  - ・市民や入込客の中心市街地からの流動化向上。
- 自動運転に必要な道路構造の検証
  - ・国において検討している自動走行空間確保に必要な道路構造の検証
- 自動運転、小型電動車に対する市民受容度の確認

市中心周辺に公共交通不便地域が多く存在



中心部バス路線運行状況及び公共交通不便地区  
 赤枠地区は地区内通過バス路線無、カッコ内数値は高齢者人口(H30.8末時点)  
 \*古津賀地区は既存路線の商業施設への乗り入れを要望  
 \*四万十市資料

高齢化率が高い、公共交通空白地域

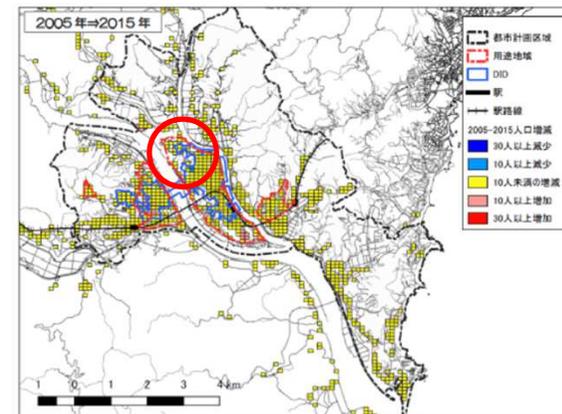


図 高齢者の人口増減数(2005年⇒2015年)

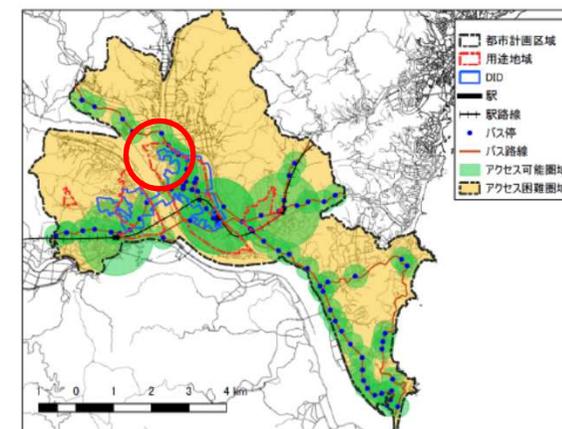


図 公共交通(鉄道・バス)とアクセス可能圏域(鉄道1km、バス300m圏域)

(丸の内ハイランド地区)

人口533名  
(241世帯)

高齢者129名

### ○交通空白地の解消

- ・市街区域内での少子高齢化の進行に伴う、外出困難高齢者の移動手段の確保(主対象地区:丸の内ハイランド)。

### ○中心市街地の流動性の向上

- ・市民や入込客の中心市街地からの流動化向上。

### ○自動運転に必要な道路構造の検証

- ・国において検討している自動走行空間確保に必要な道路構造の検証

### ○自動運転、小型電動車に対する市民受容度の確認

### ○観光施設(四万十市郷土博物館)

- ・土佐藩主山内一豊の弟、康豊の居城中村城跡に建つ、城の形をした資料館
- ・土佐一條家にまつわる資料、日本に4本しかない七星剣ほか、郷土資料を展示



### ○中心市街地からの回遊性の向上

- ・令和2年オープン予定「はれのぼ」(商店街にぎわい拠点)と、観光施設との連携
- ・市街地中心から為松公園への、市民・観光客等の回遊性の向上

### 令和2年 商店街にぎわい拠点 仮称「はれのぼ」オープン



商店街と一体となった  
開放的な空間

飲食スペース  
近代的な屋台とカフェ



コミュニティスペース  
緑豊かな広場  
イベントステージ



## 3. 四国地方整備局における実証実験の目的

## 地域の課題

## 高齢者の足の確保

## 【高齢者の移動】

- 地域内の移動は自家用車又は徒歩がほとんど
- 現状でも市役所等市中心部に行くことも困難な方がおり、高齢化が更に進展した場合の生活の足の確保が課題

## 観光地の活性化

## 【観光客等の移動】

- 為松公園及び郷土資料館への移動は、幅員が狭く、勾配の急な市道（狭いところでは2.5m）を徒歩ないし車で移動

## 道路の課題

## 自動運転に対応した道路空間の構築

## 【既存空間の有効活用】

- 自動運転車に確保すべき道路幅
- 必要な余裕幅の程度

## 【歩行者や自転車の制限】

- ローカルルールによる侵入制限のあり方

## 自動運転に対応した空間等の検証

- 狭小な空間等での自動運転車の走行状況を整理、必要幅員（余裕幅等）を検証
- ローカルルールによる侵入制限のあり方を検証



狭小幅員



山道(勾配大)



アーケード



急カーブ



## 4.今後の進め方について（調整中）

### ○今後の進め方について

- 1.実証実験路線詳細ルート決定、自動運転実施区間の決定、運行方法、一般車両等規制方法の検討、関係機関協議
- 2.自動運転に係る現地誘導施設設置、車両搬入
- 3.実証実験実施
- 4.実験後に第3回協議会を開催、実験結果の検証、実装に向けた課題の整理

